

# 平成 28 年度予算審査特別委員会 Q & A

平成 28 年度予算審査特別委員会が、3月14日、16日の2日間開催され、一般会計から水道事業会計までの9会計の新年度予算について、活発な審議を行いました。

予算審査の質疑の一部を要約して掲載します。

## 質疑の主な内容

### 総務費

ふるさと納税について

Q ①町に納める住民税にはどのような影響が出ているか。

②返礼品にはどのようなものがあるのか。また、その返礼の割合は。

A ①27年度課税分で算出すると、町外への寄付は50件で67万1530円の減収と推定している。

②昨年12月から実施しており、現在12の事業者からの協力により、農産物を含めた56種類のメニューを用意している。寄付額の3、4割程度の返礼品を送っている。



(返礼品のメニュー例) 人気を集める返礼品は品切れのものも見られる

### 民生費

保育所の主食提供について

Q 3歳児以上の子どもに対しても給食時に温かい米飯を提供するという新規事業について、保護者からどのような声があったのか。また自己負担の考えは。

A 保護者との懇談会等やアンケート、また現場職員からの聞き取りなどから、「助かる」との声が多く、衛生的な管理も含めて賛成意見が多数であった。町内の認可保育所全5カ所で無料を実施していく。

### 農林業費

ふるさと味覚工房について

Q 子どもの野菜嫌いに悩む若いお母さん方から、乾燥野菜の研究をしたいとの声がある。産直で作ることができるよう、野菜乾燥機の導入を検討できないか。

A 味覚工房利用の年齢層が高齢化していることもあり、町としても若いお母さんを含め、幅広い年齢層の利用増につなげていけるようなPRが必要と考えている。今後、機械導入の経費も調査しながら検討していきたい。

### 衛生費

新エネルギー導入促進補助金について

Q 28年度予算に計上されていないのはなぜか。

A 新エネルギービジョンが27年度で目標年次を迎えたことから、28年度、委託により実施検証を行う予定。その結果を踏まえ、新たな補助の必要性を検証するため、太陽光発電、ペレットストーブの補助金は廃止とした。



ふるさと味覚工房で開催された農業体験塾の様子

**農林業費**

**家畜ふん尿バイオマスについて**

**Q** 町が主導となって事業を進めていく意向はあるのか。また、いろいろな分野での活用について町民全体に発信していくべきだと考えるが。

**A** 道の地域新エネルギー調査・設計導入事業を導入して行う予定。委託業者が農業者を個別に調査し、その結果を精査した上で導入に向けての検討をしていきたい。町内全域で導入する方法も考えられることから、多角的に検討し発信していきたい。

**商工費**  
**スキー場の管理について**

**Q** スキー場の利用拡大に向けて具体的な施策は。

**A** 現段階では具体的な施策は示せていないが、スキー場は冬の貴重な観光資源であり、スポーツ、レクリエーション施設として町民の健康増進に大変重要なものと認識している。採算を取るのとは今のところ難しい状況ではあるが、PR活動をしながら、誘客につなげられるよう研究して取り組んでいきたい。

**土木費**

**除雪機械について**

**Q** 企業協同組合から小回りの利くドーザという機械を購入したほうがいい旨の要望が上がっていたと思うが、町は10トン専用車を購入するという説明であった。その考えは。

**A** ドーザはリースでも借りることができるとは、専用車のリースは難しい。小型でも台数を増やせば時間短縮にはなるが、除雪専用車の代わりにドーザを使うと、郊外地の除雪が遅くなる。郊外地は小型のドーザだと雪を飛ばせないため適さないことから、除雪専用車を購入することとした。



町所有の除雪専用車

**消防費**

**冬期間の緊急車両の出勤について**

**Q** 冬期間の出勤に際し、降雪時に緊急車両の通行もままならない事態が発生したようであるが、今後の対応は。

**A** 広域となった後も、町の土木課等とも連携を取りながら、道路管理状況を判断して縦横の連携を密にして対応していきたい。

**教育費**

**学校給食について**

**Q** ①今年度の給食食材は、全体の何割を地場産食材で賄うのか。  
**②** アレルギー対策は。

**A** ①直近のデータでは、25年度は重量の34・1%、26年度は32%を幕別町産の食材で賄っており、金額では約4割を占めている。今年度も例年と同等の使用量を予定している。  
**②** アレルギー食材が使われている場合でも、もれなく情報を伝えることで誤って摂食することのないよう対応しており、代替えの食材についても対応している。また、道から示されたアレルギー対応マニュアルを、今後整備していく予定である。

**教育費**

**魅力ある高校づくり支援事業補助金について**

**Q** 具体的にどのような事業に對して行うのか。

**A** 魅力ある高校づくりを推進し、生徒の増加と維持を図り、地元に必要な人材を育成することを目的として町内の高校に補助している。生徒募集や広報紙、学校案内のほか、生徒活動の助成、道外研修等々、魅力ある高校づくりに役立ててもらっている。

**介護保険特別会計**

**認知症施策推進事業について**

**Q** 町の認知症対象者の数は。また、どのような事業展開になるのか。

**A** 具体的な対象者数は現段階では把握していない。十勝管内の10市町村が連携して認知症初期集中支援チームを共同で設置し、事業の実施は10月を予定している。看護師、包括支援センターの職員等、他職種で構成したチームで家庭訪問を行い、早期診断、早期対応に向けて専門医療機関につなげていく。町としても、早い段階で町内の認知症の方と関わっていけるよう進めていきたい。